

簡単！自作アシストフック

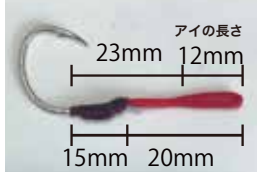
アシストフックの作り方に正解はありません！
下記の基本的な一例を元にオリジナルのアシストフックに作り方にチャレンジしてみましょう！！

■フック固定型

※特に作業中のフックの取り扱いには十分に注意しケガのないようにして下さい。

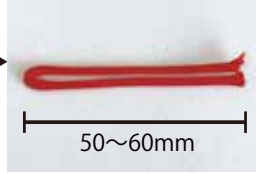
※各種商品に関してはそれぞれのパッケージの記載事項も必ずお読みになり、怪我などのないよう正しくご使用下さい。

完成見本



今回はこのようなアシストフックを作製したいと思います。
工程は大きく3つに分けて説明します。
①ループアイを作る
②フックにループアイを付ける
③糸巻き部の補強とデコレーション

①-①ラインをカットする



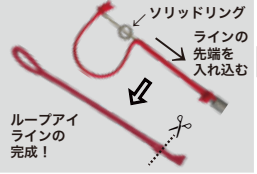
アシストライン（組糸）をカットする。長さはフックサイズやジグのサイズなどを考慮し決めるが、今回は完成見本写真と同じ物を作るので、ラインを半分に折った時 50mm~60mm 程度にカットする。
※慣れない間は少し長めにカットして下さい

①-②ニードルを通す



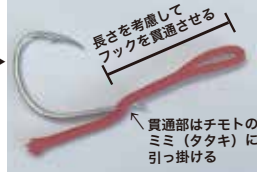
まずアシストラインに芯がある場合は芯を抜き、「アシストニードル」の先端のツメ部分を開いた状態でラインの中空に通し、中間少し手前（今回の場合先端から 45mm~50mm 位）で貫通させます。
※アイのサイズも考慮して長さを決めます

①-③ループアイを作る



ツメ部分にラインの先端を引っ掛けてツメを閉じます。そしてゆっくりとライン先端をラインの中に入れて込んで最適なアイの大きさになるまで調整しながら入れ込んでいきます。
※アイにソリッドリングを入れる場合はラインの先端をニードルで引っ掛ける前にニードルにリングを通して下さい

②-①フックを貫通させる



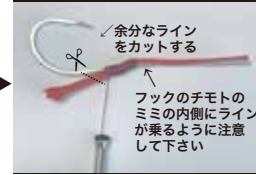
フック先端を長さやアイの方向などを確認し、ループアイラインに貫通させます。貫通した部分はチモトのミミ部分に引っかかります。
※貫通させる前にループアイラインを手で伸ばすなどして、しっかりとラインの捻れ等を取り除いて整え、アイの方向などを確認し貫通させて下さい

②-②すっぽ抜け予防



よりすっぽ抜けしにくくするためにチモト部分に「タイイングスレッド」で少し下巻きをします。バイスがある場合はフックをバイスにセットし、貫通部分と同じ幅の下巻きが出来たらラインの巻き終わりに貫通部分を合わせ、スレッドをラインの上から下巻きと同じ幅程度巻きつけます。そしてここで一度ラインのアイ側から軽くラインを引っ張るなどしてズレや向きなどを修正します
※この作業時ラッピングスレッドはカットせずに一連を連続で作業を行って下さい

②-③スレッドで固定する



そのままアシストラインとフックをスレッドで固定していきます。スレッドを巻くとラインがフックからズれるので、都度ラインを引っ張るなどして調整しながら巻いて下さい。ある程度まで巻いたら、余分なラインをカットした後更にカットしたラインの最後までスレッドを巻きつけてしっかりと固定下さい
※スレッドを巻きつける際はスレッドが切れない程度にしっかりと締め込むように縛りつけて下さい

③-①スレッドの仮止め



スレッドでの固定が完了したら、2~3回程度ハーフヒッチで糸止めし、瞬間接着剤で仮止めします。これはハーフヒッチ部分の仮止めなので、瞬間接着剤は点付けで十分なのでスレッド部分全体にはつけないで下さい。
※スレッドの補強は次の工程で行うのであくまでも仮止めとして行います

③-②スレッドの補強



最後に「タイイングスレッド」を巻いた部分全体の補強を行います。「スレッドコート」でスレッド部分全体にコーティングして下さい。1回ではなく3回程度に分けて塗って下さい。塗料が硬化したら完成です！
※タコベイトなどのプラスチック製品をチモトに被せたりする場合、塗料の成分により溶かしてしまうことがあります。その場合は最後のコーティングにだけ「クレタフィニッシャー EX10ml」や「UVレジン」などでコーティングすることで防止できます。

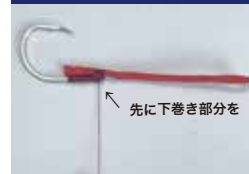
補足

なぜ②-①の時わざわざフックを貫通させるのか？

今回使用しているアシストラインは組糸と言われる糸を編み合わせて一本のラインに仕上げられています。構造上ラインを引っ張れば締まって細くなる性質があります。この性質を利用して魚がかかった時に引っ張られてラインが締まりすっぽ抜けしにくくなります。逆に、次で紹介する下巻きをしてして抵抗を発生させてそこに巻きつける方法だと、引っ張られた時ラインは細くなり、抵抗がより少なくなり、すっぽ抜けしやすくなります。よってより安心感を求めるならベストな方法だと考えます

■摩擦固定型

②-④貫通させない方法



チモト部分から「タイイングスレッド」で下巻きをします。シャンクの1/2~2/3程度まで下巻きを行い、その後アシストラインの位置を調整しながらフックの内側に寄せ、上記写真くらいまで巻きつけたら再度ラインのアイ側から軽くラインを引っ張るなどしてズレや向きなどを修正し、隙間ないようにキレイに最後までスレッドを巻きつけて下さい
※この作業時ラッピングスレッドはカットせずに一連を連続で作業を行って下さい

アシストラインにフックを貫通させられない場合等は、上記②-①~②-③の手順を左の②-④の工程に置き換えて作業を行って下さい。シャンクに「タイイングスレッド」で下巻きを行い、摩擦抵抗で固定する方法です。その他手順は上記と同様です

これら2つの基本型をマスターすれば、あとは応用としてダブルフック等様々なアシストフックをに應用することが出来ます。自分だけのオリジナルアシストフックを完成させて下さい！

WEB サイトでは上記内容を動画で配信中！

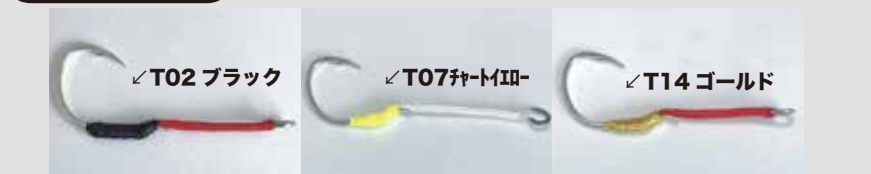
TOHO, Inc.
http://www.fishing-toho.com/
06-6956-1317



アシストフックの自作するとこんなことも出来る

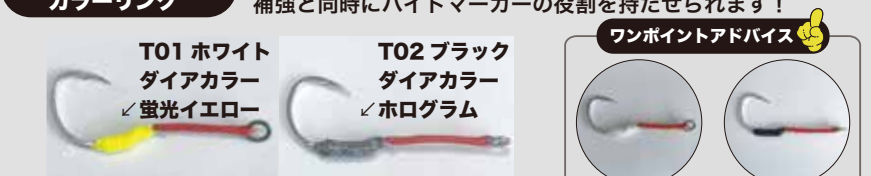
タイイングスレッドを使ったカラーリング

「タイイングスレッド」には多くのカラーがあるので、チモト補強と同時にバイトマーカースの役割を持たせられます！



ダイアカラーを使ったカラーリング

「ダイアカラー」には多くのカラーがあるので、チモト補強と同時にバイトマーカースの役割を持たせられます！



※「ダイアカラー」でカラーリングする場合は、③-②の3回目時（最終）に塗るか、もしくは少し専用うすめ液で粘度を落としスレッドに塗料が染み込み易くしてから数回塗り重ねて下さい

オーロラスレッズを使ったデコレーション

ケイムラ、夜光などカラフルなティンセルでアビール！

※「オーロラスレッズ」でデコする場合は、②-③の工程後、「タイイングスレッド」はカットせずに引き続き「オーロラスレッズ」を適量スレッドで巻いていきます。但し、右写真のようにスレッドのカラーを変える場合は、ハーフヒッチで数回結んでから、オーロラスレッズを適量スレッドで巻いていきます。

自作することでアシストフックの構造が理解でき、製作や実釣に対する理解も更に深まる！



『オーロラスレッズ』



『ダイアカラー』